

徳島県における適応策の取組について

平成30年12月4日

気候変動適応法施行記念国際シンポジウム



徳島県
県民環境部 環境首都課

「徳島県」における気候変動対策の取組

“脱炭素社会元年”気候変動対策の「3本の矢」

(平成28年度)

【1】徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

- ・ 愛称の募集(すだちくん未来の地球条例)

- ・ 平成28年10月制定
- ・ 平成29年1月1日施行

★環境審議会に新たに「気候変動部会」を設置し、議論

緩和策

(温室効果ガスの排出抑制等)

両輪

適応策

(気候変動の影響に適切に対応)

【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

- ・ 新たな温室効果ガス削減目標の追加
- ・ 平成28年12月に設定

【3】徳島県気候変動適応戦略

- ・ 平成28年10月策定

徳島県気候変動適応戦略(1)

～ 気候変動を迎え撃つ、強靱でしなやかなとくしまづくり ～

気候変動の状況とその影響(徳島)

- 年平均気温は100年当たり1.4度上昇
年降水量は変動幅が拡大
- 浸水被害や深刻な渇水被害
自然生態系や食料生産などに影響

「適応策」の必要性

- 将来、最も厳しい削減シナリオをとったとしても**気候変動のリスクは避けられない**。
- 気候変動の影響は、**地域特性により異なる**。



戦略の位置付け

- 新たな条例に基づく、**適応策に関する基本方針**

戦略の計画期間

- **平成28年度から32年度までの5年間**

戦略の方向性

- **地域特性に応じたリスクを低減し、安全安心の社会づくり**
→ 地域における脆弱性を踏まえ、現象のソフト・ハード面からの対応力を強化
- **影響のプラス面を効果的に活用し、地方創生につながる地域づくり**
→ 農林水産物の新たなブランド創出
新たな地域資源の発掘

徳島県気候変動適応戦略(2)

分野別の影響及び基本施策(例)

1 県土保全

地域特性 台風の常襲地帯、急峻な地形や脆弱な地質

現 況

河川・沿岸

- ・大雨日数が増加傾向

山地・森林・農村

- ・降水量に比例し、山地災害が増加

インフラ等

- ・山腹崩壊による線路流出、停電等発生
- ・高濁度原水など水道事業への影響

将来予測

河川・沿岸

- ・水害が頻発・激甚化
- ・海面上昇に伴う、高潮・高波の増加等による浸水被害のリスクの増大

山地・森林・農村

- ・集中的な崩壊、がけ崩れ、土石流の頻発
- ・中山間地域での風倒木災害の増大

インフラ等

- ・鉄道の運行等の交通面、電気等ライフラインへの影響
- ・気温上昇や渇水増加による水資源の枯渇、水質悪化

新条例を制定し、
強靱な県土づくりへ加速



(26年8月豪雨(那賀町))

今後の方向性と取組み

自然災害を迎え撃つ“県土強靱化”

- 「徳島県治水及び利水等流域における水管理条例」を制定し、事前防災・減災へ積極展開
- 河川・沿岸・砂防・治山施設などの整備を推進し、被害を最小限化
- 県民の防災意識の向上

地域資源を活かした防災・減災体制の強化

- 農山漁村の多面的機能を活用するため、農地や森林等の保全活動の推進
- 生態系を活用した防災・減災のあり方について、各部局が密接に連携し調査研究を実施

主な指標

- ☑重点河川の整備推進
平成30年度までに78%
- ☑生命線道路の強化率
平成30年度までに80%

徳島県気候変動適応戦略(3)

分野別の影響及び基本施策(例)

6 農林水産(食料)

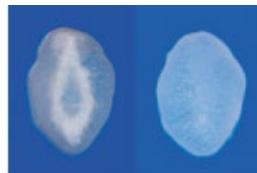
地域特性

自然環境を活かした多種多様な農林水産物の生産、関西市場での高いシェア率

現 況

農 業

- ・水稻、果樹の品質低下
- ・乳用牛の乳量等低下
- ・病虫害の分布域拡大
- ・農業用施設等の被害発生



(白未熟粒による
品質低下)

・ハウス栽培における暖房コスト低減

水産業

- ・漁獲量の変化(北方系魚種の減少)
- ・南方系魚介類の漁獲量が増加傾向
- ・養殖ノリ、ワカメの収穫量減少
- ・高波被害、海岸侵食等のリスク増大

将来予測

農 業

- ・コメ収量の減収、品質低下
- ・果樹の栽培適地北上、生育障害発生
- ・家畜の成長への影響
- ・病虫害の変化や被害の拡大
- ・農地、農業用施設等の被害のリスク増大
- ・高温化による飼料用作物の成長の早期化

安定的な生産体制の確立
と新たなブランド創出



(成長早期化が期待される
飼料用トウモロコシ)

水産業

- ・高水温を原因とする漁獲量の低下
- ・養殖業における高水温化によるへい死率増加
- ・海面水位の上昇による漁港機能・施設への影響
- ・ブリ養殖における秋冬期の成長促進、避寒に係る省力化

主な指標

☑「徳島発・次世代技術」創造数
平成30年度までに65件

☑新品種の開発数
平成30年度までに15件

今後の方向性と取組み

安定的な生産・供給体制の確立

- 高温対応の栽培管理・飼養管理技術開発
- 新たな病虫害防除体系の確立
- 魚介類の生態等の変動予測

漁港・農業基盤の安全確保

- 海岸保全施設の整備
- 農業用排水施設及びため池の整備

新たなとくしまブランドの創出

- 高温耐性品種「あきさかり」のブランド化
- 価値の高い南方系果樹の導入実証
- 徳島大学等と連携した新品種や新技術開発



(高温耐性品種あきさかり)

徳島県気候変動適応戦略(4)

戦略の取組みのイメージ

方向性

地域特性に応じたリスクを低減し、
安全安心の社会づくり

影響のプラス面を効果的に活用し、
地方創生につながる地域づくり

基本的視点

「適応策」の
主流化

気候変動の進行
に応じた
柔軟な対応

「適応策」に
対する
理解促進

「現場感覚」に
即した「適応」
の推進

横断的取組み

施策立案時における
「適応策」の組み込み

影響に関する
情報の集約と供給

県民目線での普及
啓発・環境教育の
推進

気候変動対策を
推進する人材の育成

各分野の取組み

県土保全（河川・沿岸、山地・森林・農村、インフラ・ライフライン）

自然生態系（陸域生態系、沿岸生態系）

水環境・水資源（水環境、水資源）

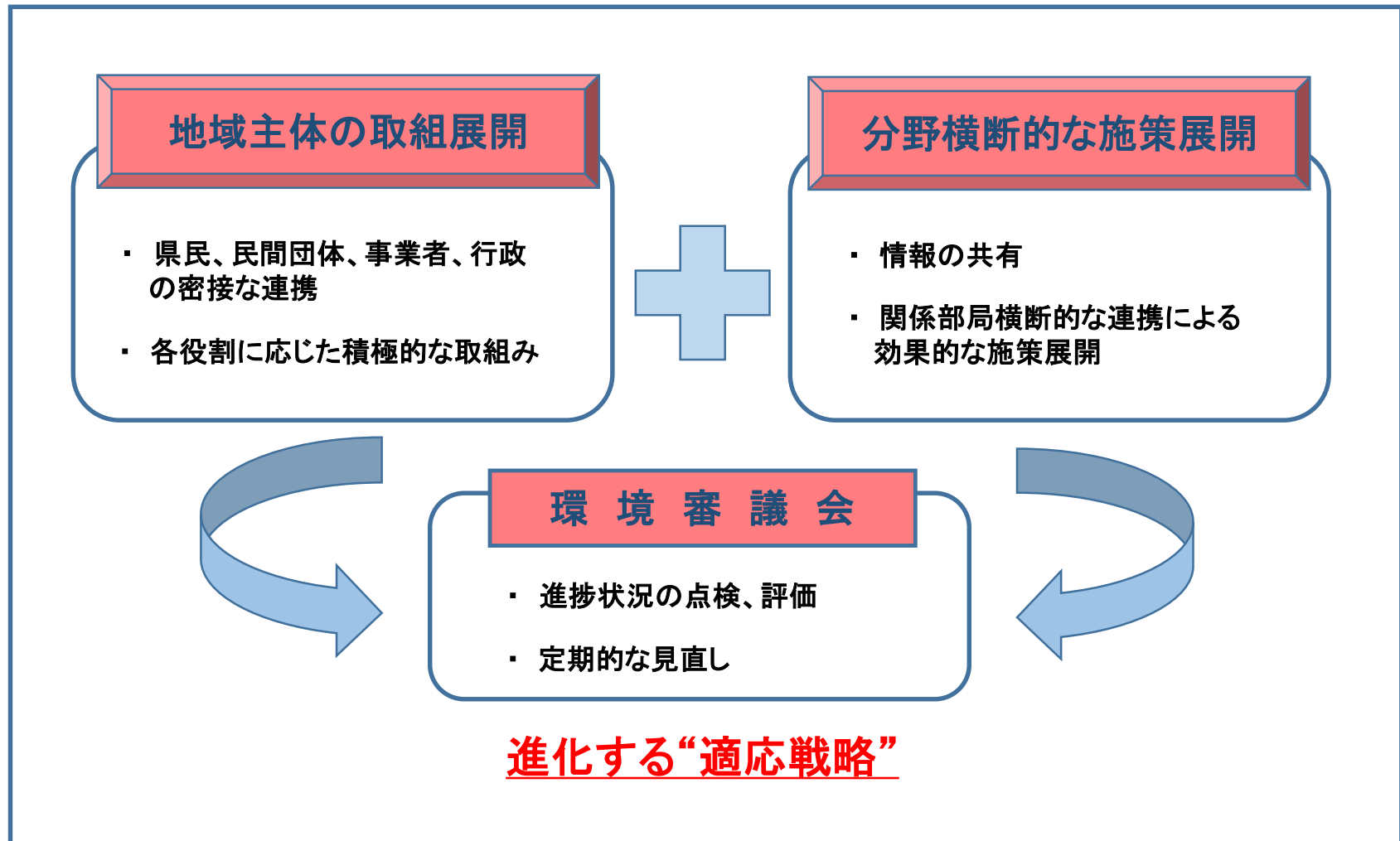
健康（暑熱、感染症）

産業経済（産業経済、観光、消費生活、その他県民生活に関するもの）

農林水産(食料)（農業、水産業）

徳島県気候変動適応戦略(5)

戦略の取組みのイメージ



ご清聴いただき、ありがとうございました。

